

1



0053322-000

特244-421

わが子をいかに教育すべきか

清水安彦・著

現実処

昭和11

AHP

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月2日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特244

421

水安彦著

定價十錢

わが子を

いかに教育すべきか

我が子を知る法

はしがき



わが子をエラいものと思ひ込み、わが子に、あまりホレすぎて、飛んだ間違ひを起すことが
ある。また、わが子が行く末を仕合せにしたいばかりに、ムリをしてしまつたり、わが子の仕
合せを解はすに於いて、世間を狭くする實例もある。

世の井の親より親たちは、商賣や、勤務上のことで、モミ苦茶にされたアゲク、わが子の
ことを苦勞し抜く。はたで見られる程、實以て氣の毒である。

それがまたフシギなもので、
出来のよい子のために苦勞もすれば
不出来の子でも苦勞せられる。

だから、いつそのこと、わが子のない方が、氣がラクでよいといふことになるが、こればかりは、どうにもならぬばかりか、遠い昔から、歌にまで詠むほど、わが子のためには苦勞し抜くことになつてゐるのが、親のヤクメである。實に因果な次第であるが、今更、仕方がない。



そこで、わが子のために、同じ苦勞するのであれば、苦勞仕甲斐のある苦勞をして、

一 わが子の將來を希望に富んだ

二 生き甲斐のある

三 仕合せな人間にしあげる。

此の三つを目標に善處すべきである。

果して、そのやうな、わかりきつたテダテがあるものであらうか、それはタシカにある。

つまり、わが子の實力を本當に突きとめて、それに應じ、それへの方面へ向くやうな教育

を受けさせれば、親の思ひ通り、わが子を仕合せにすることが出来るのである。

それを、(一)親として出来る程度に止めず(二)子として爲し遂げ得る限度に止めず、た

だくムヤミに迷ひぬくから、悲話・哀話の種子となるのである。

この冊子を読んで、親としてのシツカリとした方針を決定することは急務中の急務である。

目次

| | | |
|----|---------------------|----|
| 一 | わが子の教育が行き届かぬ理由 | 六 |
| 二 | 親たる責任を果す親はあるか | 八 |
| 三 | わが子を見劣りなくしたい親心 | 九 |
| 四 | わが子を出身學校でハクをつけたがる | 一一 |
| 五 | これからは肩書きでは採用されない | 一二 |
| 六 | 學位・學歷のネウチは下るばかり | 一三 |
| 七 | 子ゆゑに迷ふ親バカになるな | 一四 |
| 八 | 學校教育は基礎知識を早期に呑み込むこと | 一五 |
| 九 | 學問の價値をしみじみと思ふ | 一六 |
| 一〇 | 學問のネウチは役立たず程高まる | 一七 |
| 一一 | 親たちにはタシカに早合點がある | 一八 |
| 一二 | 角田金五郎翁から何を學ぶべきか | 一九 |
| 一三 | ドブさらひ人夫が世界一の星圖を作る | 二〇 |
| 一四 | 學歷のみによる榮達はムリな望み | 二一 |
| 一五 | 子が親に感謝して止まないやうにするには | 二二 |
| 一六 | これからの世の中は實力本位が勝利 | 二三 |
| 一七 | わが子の實力に相當する教育が大切 | 二四 |
| 一八 | 可愛がるばかりが親のヤクメでない | 二五 |

わが子を

いかに教育すべきか

—わが子を知る法—

清水安彦著

| | | |
|----|----------------------------|----|
| 一九 | 親の立場も苦しく、子の立場も苦しい…………… | 二九 |
| 二〇 | 頭腦の劣るわが子ほど仕合せにしてやる…………… | 三〇 |
| 二一 | 此の社會には誰をも仕合せにする仕事がある…………… | 三一 |
| 二二 | 不出來の子でも親次第でウンと仕合せになれる…………… | 三二 |
| 二三 | 擔任教師と親と協力してわが子を知れ…………… | 三三 |
| 二四 | わが子の長所を早期に知ること第一とす…………… | 三四 |
| 二五 | 野口英世博士と矢野恒太氏…………… | 三五 |
| 二六 | 長所を生かして仕合せになつた實例…………… | 三六 |
| 二七 | 「ハイ」「ヘイ」の論争から文學博士となる…………… | 三七 |
| 二八 | 會社・銀行も大學出身者を歓迎しない…………… | 三八 |
| 二九 | 外國では日本以上にヒドい…………… | 三九 |
| 三〇 | 大學出身者を高給で迎へない話…………… | 四〇 |
| 三一 | 鐵道省では學校の成績をアテにせぬ…………… | 四一 |
| 三二 | いかに健康が大切であるかの實話…………… | 四二 |
| 三三 | 小説家でさへ世間の想像とちがふ…………… | 四三 |
| 三四 | 人を使ひこなす手腕の持主とせよ…………… | 四四 |
| 三五 | わが子を出世頭としたい親心の忝けなさ…………… | 四五 |

一 わが子の教育が行き届かぬ理由

日本の人口は、年々、すばらしい勢いで殖えつつある。しかし、世間の人に向つて、人口が殖えて行くといふ話をしても、まるで景氣のよい話でも聞いてゐるつもりで、済まし込んでゐる。つまり、人口が殖えて行くといふことを聞きばなしで、そのために、自分の身邊にダンダンを押し寄せてくるころの、社會生活上の激變を一ツも苦しめないものである。それよりかは、何か景氣のよい話とか、威勢のよい話とかをしたがるとともに、また聞きたがる。まことに陽氣な國民である。

そんなことはドウでもよいといふ顔付をしてゐながら、イザわが子を、志望の學校へ入れたくても、入學出来ないとか、あるひは、わが子を仕合せにするための就職口探がしとなると、目の色を變へて大騒ぎを演ずる。

つまり、あくまでも其の場へ打つ突からないと、一生懸命にならないのである。

一例をあげると、人口の増加するに連れて、生存競争が烈しくなり、生存競争に破れた人間

が落伍者となり、ルンペンとなるといふことを眼前にしなから、

- 一 その原因を究めるでもなく。
 - 二 自分自身の將來について考へるでもなく、ついウカ／＼と過ごし。
 - 三 此の觀點からは、わが子の將來のためについても、周到な計畫と見透しをつけず。
 - 四 中には、遠いさきのことまで心配しては生きてゐられないとか、頭がハゲるとか。
 - 五 子供の將來は、子供自身の考へで何とかするであらうとか。
 - 六 親がなくとも子は育つといふ諺を、スバらしく論理づけて見たり。
 - 七 なるやうにしかならぬとか。
 - 八 子供が成人した頃には、遊んでゐても食へるやうな世の中の出現を夢みて見たり。
 - 九 とかく、一時のがれの考へに耽るか、自分の都合のよいやうにキメておく。
- 其の間に、子供はドシ／＼殖えるばかりであるし、また、政府のお役人や學者たちが、寄つてタカつて研究對策を練つてゐるツバから、そのお役人や學者の家庭にも、あとから／＼子供が産れてシマツに困る。

これから、お話ししたいと思ふことも、實は人口が増加する、つまり、わかりよくいへば、子供がドシ／＼産れるからこそ、親たる立場上、大いに苦しむのであるから、わが子の教育といふことについては、ただ陽氣な氣持ばかりでなく、眞の教育、すなはちわが子を行く末長く、仕合せにするといふ點に重きをおいて實行していただきたいといふに外ならぬのである。

二 親たる責任を果す親はあるか

ちよつと街を歩いて、ココの横丁、向うの露地口に、雀のごとくにガヤ／＼群がつてゐる子供たちを見受けぬ町は無い。實に日本國中、子供でイッパイである。

一國の勢力およびその消長を表徴するものは、小國民なのであるから、この點大いに意を強うするに足るが、一面において、この子供の多いことが、世間の多くの親たちをして、泣かせることとなり、苦しませることとなつてゐるのであつて、發展途上にある新興日本國民たる立場も、なか／＼辛いことである。

小學校の三年生、四年生の頃までは、親たちもヒドク氣にかけない。「少しは勉強しろよ」

ぐらゐの、効果のあがらない叱言で済む。

ところが、さて小學校五年生ぐらゐになると、男親も女親も、しきりにわが子のことを考へて苦しみ始める。もちろん、家庭の經濟的事情によつて、わが子に對する親としての希望に、それ／＼、異るところはあらうけれど、近所の子供たちや、わが子の友だちの、それ／＼の方針やウツサを聞いて、さまざまな考へをめぐらす。上級學校に入れるにしても、また家業や實務に就かせるにしても、それこそ夜の目も合せずに、眞劍になつて来る。人の子の親たる責任を完全に果し得るものは、此の世の中に幾人あるのであらうか。また、世間態を考へて、わが子を教育するといふことは正しいことであらうか。

三 わが子を見劣りなくしたい親心

ルンペンの大群を眼前にしても平氣でゐられ、頗るノンキと笑はれる人間であつても、さてわが子のこととなるや、一生懸命になる。これぞまことに天意に本づく人間本來の原動力であつて、この原動力すなはち恩愛の情に缺くる者は、わが日本人の中にはない筈なのである。

とにかく、わが子ほど可愛いものはない。よく掌中の珠といふが、わが子は掌中の珠どころの比ではない。かうした眞剣・切實な親心が、わが子の將來の仕合せといふことにからみついで、シミ／＼と考へるやうになるのは、今も言つた通り、小學校五年生ごろからである。

これは、最も具體的な、切迫した眼前の問題として、上級學校の入學試験といふものが、チラつき出すからであつて、この難關の突破如何が、わが子の運命の八分までを、ビシヤリツと決定してしまふものやうに、親たちの眼には映るのである。

現在の親といふ親たちは、皆すべて、この試験制度を中心目標に、悲喜いろ／＼と、わが子の進むべき方向をキメようとしてゐる。これは尤も至極の話であつて、現今までのわが國の教育制度および社會制度から見ても、一社會人として見劣りなく生きて行くためには、學歷による就職手段が、最も確實であり、安全であつたからである。

しかし、これからの世の中も、今の今、親たちの考へてゐる通りのままであらうか。それとも何等かの變化が起つてゐるのであらうか。

四 わが子を出身學校でハクをつけたがる

その説き明かしの順序として、先づ、今の親たちの打ち割つた心の中を、一言で片付ければわが子の出身學校にハクをつけたがる。決してビリで卒業してもといふわけではないが、イヤに公立・官立を尊重し過ぎる。

たとへば、同じ中學校にしても、私立よりも府立・縣立が良いと、アタマからキメてしまふのである。それも、東京でいふと、同じ府立の中でも、府立一中に入れたがる。そして、若し首尾よく一中の受験が通つたとならうものなら、親たちのよろこび様といつたら、まるで、天にでも昇つたやうな氣持になつてしまふ。親たちの中には、あるひは一中をパスしたことを以て、恰も、わが子が大臣か百萬長者にモハヤなつてしまつた程によるこぶかも知れない。

しかし、皆が皆、一中に入れるわけでない。そこで、わが子自慢の親たちも、いろ／＼苦心焦慮の上、大割引して、わが子の才能に應じ、それ／＼適當と思はれる上級學校に入れようとする。でも、まがりなりにも、とにかく思ふツボにハマつて、その學校の入學試験にパスし、

その学校の制服・制帽を着け、元氣よく通學し出すわが子の姿を見て、思はずホロリとする親たちもある。

五 これがらは肩書きでは採用されない

かく親も子も、ともくになつて、受験に浮き身をやつすのは、もとより受験そのもの大切さもあるが、それよりは世間態をはばかりつて、受験が首尾よく行けば、何々學校出身といふ肩書きが、社會に通用するといふ見透しのもとにである。

つまり、入學試験をパスしたよろこびは、實はわが子の業に秀れた實力をよろこぶべきであるのに、さうでなくて、どうも少々アタマの變な親たちが多いのである。

これは、明治以來の古いアタマで、あの學校へ入れれば、その上の學校へ入學するにしろが、萬事、具合よく行くにちがいないといふ、オマジナイかうらなひ見たいな、心構へから來るのである。

現代は、帝大出の學士さんでも、一人前の人間としては、社會が通用させないのである。現

に帝大を出て、わが身一ツの始末が付かず、かへつてロク／＼學校へも行かないのに、自分身の實力を、充分に働かして、一流社會の重役になつたり、獨力で大きな事業を經營して大學出を澤山使つてゐる、シツカリした人間が多いのである。

大學出身者の至つて少かつた時代には、大學出を、たしかに各方面で大歓迎したけれど、今日となつては、その人間に具はつてゐる實力に注目が向けられ、各方面とも、人物を採用するのであつて、肩書きを採用するのではなくたつたのである。それなのに、親たちの迷夢は、まだ醒めきらずにゐる。

六 學位・學歷のネウチは下るばかり

以前は、肩書きといふものが、たしかにモノを言つた。しかも採用する官廳・會社・銀行ばかりでなく、社會全般が、これを歓迎したのである。そこで「學士さんならムスメをやるか」などといふ、ユーモア讀みものさへ、一時、洛陽の紙價を高めたほどであつた。

しかし、それも今から見れば、過ぎ去つた昔のことであつて、この風潮は、明治時代を通じ

て一世を風靡し、大正の中葉を以て終りを告げ、關東大震災を機として、學歷すなはち肩書き以上に、その人の實力を重視する時代と化し、現今においては、肩書きを振りまわしても、テシで社會が相手にして呉れはしない。

これからは一層この傾向が、ますます露骨になつて行くばかりであらう。従つて、一時は、博士といへば、神様ほどに崇められたものであつたが、その博士でさへ、今日は實力の伴ふ博士ならばとにかく、一向、重視せられぬ趨勢にある。アケスケに言へば、肩書きを持つてゐるものは、箒で掃き棄てる程、無數にゐるのであるから、肩書的社會存在價值は、いたつて安く且つ低く、つまり世間から見クビられるやうになつてしまつたのである。時のいきほひといふものは、實に恐るべきものである。

七 子ゆるゑに迷ふ親バカになるな

このやうに、現在においては、そのネウチを低下してしまつた學歷（肩書き）なるものが、今でも大いにネウチあるやうに見て居るのは、たしかに、昔のままのならばしを追ふ方が、聞

違ひが少いのであるといふ、まことに小さな、そしてバカ／＼しい親心からの迷ひであつて、いかに、子ゆるゑに迷ふ親心であつても、キツバリと棄ててしまふべきである。

まして、それもタシかに帝大まで卒業させても、一向わが家のくらし向きにヒビが入らぬ程の、立派な資産があれば知らず、工面し、借金してまで、わが子の學資に入れあげやうとするのは、親バカを通り越して、社會にとつても、迷惑であるばかりか、採算無視のヒドい投資である。大いに笑ふべきで同情の餘地がない。

ただココで言ひ添へたいことは、わが子の方から、親たちからの仕送りとはビタ一文貰はぬ、自分の志すところを、あくまでも貫き遂げたいからといふ、立派で強固な意志の表示を、實地に見せて呉れるシツカリ者であつたなら、親たちとしても、イモを食つてでも、わが子のために、徹底的に援助すべきである。

八 學校教育は基礎知識を早期に呑みこむこと

著者が、今までに述べたところを曲解して、學問は人間に不必要であるといふ風にとられて

は困る。著者は、決して學ぶことをやめてしまへといふのでなくて、學ぶことは一生涯大切なのであつて、ココからあとは學ぶに及ばぬといふ境界線を引くことは出来ないものである。つまり若いうちにするところの、學校での勉強といふことは、一生涯の間學ぶべきところの方法と基礎を、早期に受け入れてしまふといふのに過ぎないのであつて、むしろ、學校を出てからの研究の累積が、ハッキリとネウチを定めるのであるといふやうに痛感する。

九 學問の價値をしみじみと想ふ

ココに再言すれば、學歴といふ單なる經過と、學問といふ實質とを混同視してもらひたくないことである。もちろん、學問は人類文化の根源であるばかりか、各人をして、人間らしい仕合せを充分に味はせるために、どうしても閉却し去ることの出来ない。すなはち、人間として生きてゐる限り引き離すことの出来ない大本なのである。

尤も、なかには在學中だけで、社會に出てからは、ロク／＼本を読まないといふ人もあるけれど、これがまた、大變な間違ひの根因である。もし在學中修得しただけで、それから後は、

何一つ付け加へずに一生を過ごすことの出来たといふ人があるとすれば、フシギ千萬である。かならずや。學校時代よりかは、精神内容にも複雑性を加へ、社會的體驗を増し、在學中修得したところを、實社會に應用して、大いに爲すところあつたに相違ないのである。

一〇 學問のネウチは役立たす程高まる

さて、學歴とは何であるかといふに、修業年限何ヶ年の課程を、修得した人であるとか、何々といふ學問を所定の何ヶ年間、専攻した人であるといふ、一つの『指標』であるに過ぎないのであつて、一層わかりやすく言へば、一種の看板なのである。ヨシヤその看板に、多少の偽りなしとするも、結局、さう大したものではないといふ結論に到達しさうである。

だから、人間として尊重すべきことは、肩書きといふ『學問の看板』でなくて、學問の實質と内容である。更に、その實質および内容を、いかに活用して役立たすべきかが問題であり、どの程度までを、實社會全體のために、また、わが生活のため、健全・充實化するため、

役立ててゐるかが「學問のネウチ」を決定することになるのである。

一一 親たちにはタシカに早合點がある

ココにおいて、われ／＼は、大いに考へなくてはならないことになる。すなはち、教育機關の整備のために、いろ／＼の學校が増設されるのは、實は、一人々々の幸福開拓のためにも、大多數の人間を幸福な生き方をさせるためにも、ゼヒともその根源である學問を充分に役立たせようとの、主旨に立脚してゐるのである。それを、學校教育なるものを目して、ただカンタンに學位・學歷を授けるとともに、それだけで直ぐにも幸福になれるヤクメを、充分に果してくれるものであるといふ風にとるのは、一種の早合點である。

そんな早合點なら、してゐないさといふ親たちがあつても、口と腹とは大きなチガひで、實は、子ゆゑに迷ふ親心は、ココまでハツキリと突きつめた考へを持たないのであらう。

株式の例でいへば、新東が儲かるからと言つて、ネコもシヤクシも新東を買つて、イイ氣持でゐるのと同じである。

一二 角田金五郎翁から何を學ぶべきか

そこで、人間にとつては學問の發揮活用が主で、學歷はこれをヨリよく役立てるための準備ゆゑ、從のヤクメにあたるわけである。

世の中には、學位・學歷を持たない人で、學問の造詣の深い人が澤山ゐて、仕合せな境涯にめぐり合せてゐる。一例をあげれば、皆さんも多分御記憶のことと思ふが、昭和九年の陸軍大演習に際し、單獨拜謁の光榮に浴した功勞者の中に、角田金五郎といふ老人があつた。

この角田翁こそは、赤城山麓に埋もれて、深き世の權勢利達をヨソに、ひたすら、自己の好きな研究に一生を捧げた、世界的植物研究家で、群馬縣勢多郡芳賀村の草深い研究室に全生涯を打ち込み、今もなほ蘇苔類の神秘を探りつづけてゐる篤學者なのである。

角田翁は、名も功も強ひて求めやうとせず、コツ／＼と唯一人ドウランを友として、赤城山を始め、群馬・栃木・長野・新潟・山梨・静岡等の山野を跋涉し、死線を越えること數度、その間苦心採集した地衣蘇苔類は、一萬數千點に達し、甲信國境の八ヶ嶽だけでも八百種を集め

たといふ。このタヌキの研究の結晶は、既に二百餘種の新種を發見し、世界の植物學界に、ひろく紹介されるに至つたのである。

翁は、明治十三年小學校教員をしてゐた時代、草木を兒童の教材にしようと、顯花植物の研究を思ひ立つたのが動機となり、参考書一冊ない當時のことゆゑ、ただ燃えあがる熱情一ツであらゆる苦艱をば克服し、やがて隱花植物からきのこと類へ、更に苔類の世界に入るに及んで、凡眼には、つまらぬもののやうに思はれる苔類の、多種多様の姿にいよ／＼魅せられ、同四十二年、斷然教壇を去つて、自分の好む研究に専心没頭し始めたのであつた。この間、正に半世紀に及び、その非凡の努力と異常なる熱心は、まことに崇敬に値ひするものがある。

一三 ドブさらひ人夫が世界一の星圖を作る

これも昭和九年の秋のことであつた。「記載された星の總數三萬二千といふ、眞實、世界一の精密な星圖が、アマチュア天文家によつて完成された」といふ書き出しで、東京の某有力新聞は、隠れたる街の天文家を紹介してくれた。その事實はかうである。

京大、花山天文臺で東西天文學教會の總會が開かれ、山本一清博士をはじめ、多數専門學者が集つてゐるところへ、法被姿の頗る風采のあがらぬ、耳の遠い中年男が現れ、十三枚の大製圖紙に、經度・緯度も正確に、無数の星を記入した星圖を、並ゐる専門學者の前に繰りひろげて、一同をアツと驚かした。

以來、山本博士が其の星圖の内容について、仔細に検討した結果、遂にこれに對して、「世界第一の星圖」なる折紙を付けるに至つたのだつた。この星圖を作りあげるまでのあらましの話はかうである。

この篤學のアマチュア天文家は、一衛生組合のドブさらひ人夫、草場修氏であつた。同氏は正式に天文學を修めたわけではなく、數年來セツセと圖書館通ひをして、あらゆる天文に關する文献を探り、約三萬二千の星について、經度・緯度・光度ならびに其の日本名および支那名を精細に調べあげ、星の位置や光度などが、その名稱とともに一ト目でわかるやうな星圖を作りあげたもので、現在ドイツ・アメリカなどから輸入して、普通使つてゐる星圖は、肉眼で見える星を標準にしたもので、その記載星數は六七千に過ぎず、それらに比して約五倍の星數を記

入した、この理想的な星圖が、日本の、しかもアマチュア天文家によつて完成されたのであるから、たちまち世界の天文學界にセンセーションを起したことは、當然のことである。

山本博士は「世界に對するわれらの大きな誇り」として、絶讃の言葉をもつて推賞してゐるが、なほ同博士は、更にこの星圖を一層完全なものたらしむべく、草場氏を京大宇宙物理學第二講座に引きとり、同博士指導のもとに「世界一精密星圖」を目標に、研鑽をつづけ、草場氏の初志を遂げさせることとなつた。

如上の美談は、小さな成功を急がず、また、鼻高々とした發表を思はず、ある研究期間を、よく耐へ忍び、充分なる努力を傾け盡したことを立證するものであつて、同時に、學歴は無くとも、その本人が眞面目を以て貫けば、學問を立派に活用して、國家社會のためにも役立つことが出来るとともに、わが身の出世を遂ぐる事が出来るといふ事實を、雄辯に物語つてゐるものとして、ココに収録した次第である。

一四 學歴のみによる榮達はムリな望み

かく考へて來ると、受験の難關を突破させ、わが子をして、志望する學校へ入れるやうにする主目的は、つまり、學問を順序正しく修めさせた上、これを充分に活用させて、立身のテダナとするのであるやうに見えるが、實は、親バカの立場から（露骨に言へば）、あまりエラクもないわが子を、エライものにして見たい、少くとも、他家の子供に比して、見劣りのしない子にして、ムヤミに自慢したいといふのが本心である。

そのために、祖先傳來の財産までスツカラカンにして、大いに後悔することがあるといふわけ、ココは一つ、前記の實例なども、熱し切つたアタマの中へ、よく注ぎ込んで、親バカにならずに、よく遠い將來まで正しく見透して、單なる學歴によつては、これからの世の中に、わが子の榮達といふがごときことを望むのが、ムリである間違ひであるといふことを思ひアキラムべきである。

世の中の親たちが、學歴なるものに對して、神様のお守りか何かのやうな考へで、わが子の身體に學歴さへ付けておけば、イザといふときはヤクに立つであらうぐらゐな、アサハカな願望を棄てて、次第に「實力」に適當なだけ教育する。といふ風になつて來ればシメたものであ

る。卒業證書に記載され、履歷書に書き込む學校名を、唯一のタヨリにする親心は、飛んでもない間違ひを惹き起すものとわである。

一五 子が親に感謝して止まないやうにするには

では「實力」とは何か？

著者は、これを定義して「自己の實際生活を漸次向上發展せしめて、仕合せに生きること」といひたい。これは、頗る利己的な言ひ方であるといふお叱りを受けるかも知れぬが、まことに止むを得ない事實に立脚しての、本當の言葉なのであるから仕方がない。

人間として此の世の中にあらん限り、經濟生活といふ大原則の支配を、生れた瞬間から、死んで行く最後まで、少しの手加減なく受けるのである。そこで、親たる立場から、よくわが子の將來を考へてやり、決して大變な大人物になるやうな教育を考へず、社會人として仕合せであるやうな邊をネラつて、すなはち、わが子の實力相當な教育を授けてやれば、この親の取つて呉れた措置を、子が成長し、親が死んだ後までも切に感謝してやまない筈である。

では、ドンな風にしたらよいかといふことになる。そのことを説き明かすために、一番信用して下さるであらうところの、實證的方法を用ひ、なほ、現在各方面において、相當な地位を占めて居らるる人たちの感想をも紹介して行きたいとおもふ。

一六 これからの世の中は實力本位が勝利

現下の國際情勢から一考して見るに、やはり實力がモノをいふ時代であるといふことがハッキリわかる。論より證據、聯盟だとか、條約だとかいつたところで、一朝、國と國との間に面倒が起つて、事態がむづかしくなつてくると、一切がヤクに立たなくなつて、實力と實力との正面衝突といふことになつて来る。そして、實力に富む國は伸び、劣つた國は、悲境のドン底に墜ちねばならない。そのよい實例は、皆さんの方でよく御存じとおもふ。

國と國との間のことは、そのままそつくり、人間同志の關係にアテはめることが出来る。實力行使の最も手近い例は、あの角力であるとおもふ。角力で一番強いのは横綱とされてゐる。しかし横綱だつてタマには負けることもある。だが、マケるとしても、ヤタラにマケはせぬ。

先づ、横綱を敗り得るものは、さうザラにあるものでない。幕下などは、百ベン、二百ベン打つ突かつて行つても、なか／＼横綱を倒すことは出来ない。

これは、なぜかといふに、そこには明らかに、(一) 體力において (二) 經驗において (三) 頭腦において (四) その他のすべての點において、クツキリと實力行使上の優劣がモノをいふからである。

世間が暮らしにくくなつて來ると、生活に對する態度がひきしまつて來る。情實や、懐柔やペテンや、妥協が幅をきかしてゐたのは、昔の夢と化し、そこで一にも實力、二にも實力といつたやうな、激烈な格闘に近いものが、マン中に押し出されてくる。それが、これからの世の中の根本基調になつて來る。しかし、これはイツの世の中でも、實力が勝ち通しであつたのであつて、いまさら、あらためてコンなことをいふのがキマリわるいくらゐである。

一七 わが子の實力に相當する教育が大切

そこで、わが子を、これから上級の學校に入れようとする親たちは、いままでとは全然異つ

た考へで、わが子の仕合せのために、よく圖つてやるべきである。

『實力』に對抗して行くには『實力』を以てするより仕方がない。これが最良の方法であつて、最善の處置である。

實力本位のこれからの社會に立つて、落伍しないで活動をつづけられるやうにするために、わが子に對して、實力に相當した教育を施しておくのが、最も賢明なことは勿論である。

要するに、これからの時代にヨリよく生きて行かうためには、肩書きの野望を抱くなかれといふことに盡きる。

だから、大學までやらなくても、此の子にはこの方面の學科を、この程度まで修得させておいて、社會に送り出せば大丈夫であるといふ見きはめをつけて、その通りにする。ココのところ、親として、最も留意すべきことなのである。あまり、わが子にホレ込んでしまつて、飛んだ間違ひを仕出來さぬことである。

一八 可愛がるばかりが親のヤクメでない

人の子の親として、わが子の可愛ゆくないことがあらうか、可愛ゆくて仕方ないのが親心の然らしむるところで、既に言つたやうに、人間味の極致であるが、また、可愛いだけに、他面において、わが子に對する觀察は、周到・緻密であらねばならない。

いかに可愛いわが子だとして、溺愛ではダメである。ところが、バカな親ほど溺愛におちいるのである。わが子のためなら、祖先から受けついだ財産までカラにしてしまつてもよいなんといふバカなことを考へる。これが子の方へ傳はつて來ると、子の方では、いろ／＼ムリを言ひ出す。それを通してやると、わがままになつて來る。それもきいてやると、間違つたことをやり出す、それでも親バカは目を細くしてよろこんでゐる。さういつた親の態度が溺愛といふのであつて、一家の不幸此の上ない。

溺愛も、わが子が可愛いといふ正直一途な親心のあらはれであるから、保険金を何萬圓とか欲しいために、わが子わが子を犠牲にしてしまつたといふのよりはよいが、しかし、この溺愛の結果、わが子が増長して、やがて、我が家を破滅におとし入れるばかりでなく、社會の一員として立つやうになつてから、多くの他人にまで、いろ／＼の迷惑を及ぼすこととなるから、

わが子の教育については、親として充分なる責任を盡すべきである。

一九 親の立場も苦しく、子の立場も苦しい

わが子のために、泣きの涙で老後を暮らさねばならぬ程、不幸におちいつた親が、世間にはナカ／＼多いのである。しかし、その不幸におちいつた原因こそは、誰を恨むべくもない、われとわが身が、わが子に對する教育方針を誤つたためなのである。

世の中に、わが子ゆゑに絶望悲觀のドン底におちいつた親ほど、ミジメなものはない。これだけの心持を、わが子が幾分でも汲みとつて、親に盡して呉れたなら、昨日までの嘆きは、今日のよろこびとなつて蘇生し、その親にとつては歡喜に満ちた天地と化するのである。

實に、これからの親たることもむづかしく、また、これからの世の中に戦つて行かねばならぬ、人の子たるものの立場も、まことに容易ならぬことである。

二〇 頭腦の劣るわが子ほど仕合せにしてやる

「どうも此の子は頭腦のはたらきが鈍くて困ります。これではトテも上級學校にやれませんが、丁稚奉公に出すより仕方がないと思つてます」などと、親たちから、よく聞く言葉であるが、この親は、自分の愛兒の頭腦のよくないことに失望し、丁稚奉公といふことを、さもさも情ないことのやうに考へ、フガヒない身の上に突き落してしまふぐらゐに思つてゐるやうである。なるほど、わが子の學問に適さないといふことは、一應嘆くべきことであらうが、それが、その子の持ち合せた實力であれば、それでよいではないか。

だから、そのやうな場合は、上級學校に入學させることは、スツバリとあきらめて、社會生活を実行する上において、その子に最も適したと思はれる方法を講ずべきである。そのためには、丁稚奉公は實によい思ひ付きで、まことに結構である。

よろしく、この子のために、一生食ふに困らぬであらうところの、適業を撰定して、永い將來の幸福を計らつてやるべきである。しかるに、丁稚奉公と稱し、親からして、つまらぬことのやうに思ふから、子も奉公に行くことを泣いてイヤがり、重ね々愛兒を不幸に突き落さうとする。これこそ實は鬼のやうな親心である。

二二 此の社會には誰をも仕合せにする仕事がある

現代の親たちは、明治時代における智育偏重の空氣をそのまま受けついで、わが子の將來を判断するにも、すぐと頭腦が良いわるいといふことを以て標準とする。

これは、飛んだ間違ひであつて、不具であれば不具のやうに、また、幾分智力に缺けるといふことであれば、そのまま、この社會は、それらのすべての子供たちを、成長させて、それぞれ有効に用ゐてくれるところなのである。

つまり、目がわるかつたら、モミ療治といふ商賣を習はせ、若し腰から下に病氣でもあつたら、裁縫業を習はせれば、かならず、世間を安泰に渡つて行けるやうに、仕向けてくれる、ありがたいところなのである。

此の社會といふものに存在する身過ぎ、世過ぎのわざといふものは、決して、健康で、頭腦の秀でて居るものばかりに仕合せを與へ、その他のものには、不仕合せを與へるといふ様に、きまりきつたものでなく、要するに、ひたすらマジメに、眞剣にといふ心構へを棄てずに、努

力をつづける人には、人間らしい仕合せを與へる仕組みになつて居るのであるから、大いに意を強うして可なりである。

一二二 不出來の子でも親次第でウンと仕合せになれる

いかに、わが子が不出來であつても、その性格・才分・氣質等々を、あらゆる角度から觀察するとともに、よくこれを導き、親たる責務を充分に果たすやうに苦心を拂へば、かならずや、不出來と思ふわが子から、素晴らしい長所を見出すことが出来る筈である。

それゆゑ、ひとり、出來のよい子ばかりを重視せず、なかに不出來の子があつても、親心の眞實を傾け盡して、すべてのわが子の行く末を仕合せにすべく、最後の最後まで的手段を盡すべきである。

世間には、わが子の不出來に絶望して苦悶する親たちもあるが、これでは、親としての眞心のあらはし方が、まだ不充分であるといふことが言へる。

不出來の子をも仕合せにしてやりたいと、一心に計るものは、その子の親以外に、世間の誰

がしてくれるであらう、あくまでも、その子の親の眞情に待つ外ない。

一二三 擔任教師と親と協力してわが子を知れ

教育とは何であるかといふに、わが子を知ることである。それ／＼のわが子の個性を見抜いて、これをヨリよく開發するにある。昔から、『子を知ること親に如かず』といふが、この、子を知るといふことは、『子の個性を見抜く』といふことと同意義であつて、なほ詳しく言ひかへれば、『親は、わが子の性格・傾向・氣質・才能等々、すなはち、個性を確實に發見するのに、最もふさはしい立場にある』といふことになる。それはその筈で、性格・氣質のよく似てゐるわが子のことであるから、親として、わが子の個性のわからぬわけはないのである。

親に次いで、その子のことを、よく知つてゐるのは擔任教師である。昔なら知らず、現在においては、教師の素質がウンと向上してゐるから、しんみになつてわが子を托すことが出来るのである。よく『あの先生はえこひいきがある』などと、教師の悪口を無遠慮に言ひ散らす親もあるが、それでは假りに自分が教師になつて、教へ子に對したとき、此の天真らんまんな

る子供たちに、果して平気で片手落ちな不公平きはまること出来るかといふに、とても良心の、がめでやれるものではない。

ゆゑに、一旦、わが子の擔任ときまつた教師に對しては、これに絶対の信頼を置いて、尊敬するばかりか、わが子に關することは萬事を任せ、擔任教師の言を参考とし、骨子として、家庭におけるわが子の指導・取り扱ひに、よく氣をつくべきである。

わが子を、最も實力に適當した、仕合せな方向に導くためには、ゼヒとも、ひとり親ばかりでなく、親と擔任教師とのピッタリと一致した努力が大切である。

二四 わが子の長所を早期に知ることを第一とす

子供のうちから、それぐ長所もあらはれば、短所もあらはれる。たとへば、算術は出来るが、読み書きが不得手であるとか、算術はダメだが暗記力に富んでゐるとか、皆、それぐ得意とするところを異にしてゐる。

そこで、わが子の長所を早く見出して、それを充分に伸ばすやうにしむけてやる。もちろん

短所を補ふことを閉却してはイケない。これは、人の親たるものの、かならず爲すべきことであつて、わが子の長所（および短所）に對して、目を蔽ふてゐるやうな態度を執る親があつたとすれば、その親こそは、愛兒を精神的に殺害したと同然なのである。

尤も、實際の場面に打つ突かると、到底、豫想のつかないやうな難澁な事件も起るけれど、それは、親と子の間における、相互の讓歩によつて、圓滿に解決がつくものと思はれるから、一々の例はココにはあげない。

二五 野口英世博士と矢野恒太氏

とにかく、いつもサウなのであるが、特に、これからの時代に、最も安全な立身術があるとすれば、『自己の長所を生かす』にある。

いま自己の長所を生かして、輝しい成功を収めた二大人物について話したい。

その一人は醫學博士・理學博士野口英世先生（故人）であり、他の一人は日本保險業界の鼻祖たる矢野恒太氏である。

野口先生は、學生時代から一事を研究するにあつて、これを比較し、對照し、分解し、分析し、綜合し、あらゆる方面から徹底的に調べあげねば承知しない人であつた。この性格と才能が、細菌の發見研究にピッタリ適合してゐたので、遂に世界的名聲を博すことになつた。

矢野恒太氏は、生來ともいふべき程に、統計的頭腦に秀でた人で、その非凡の才能を驅使して、世間の未だ氣づかぬさきに、保險事業なるものの研究に打ち込み、後、歐米先進國の實例について調査研究を遂げ、日本の保險業界をして、今日のごとき隆盛を招來する素地をつくつた人である。

二六 長所を生かして仕合せになつた實例

矢野恒太氏の談話の中にある例であるが、ある中學校の先生が、自分の教へ子の中に、學科の出來のよくないのがゐて、大變困つてしまつた。でも苦勞の末にヤツと卒業させた。

ところが、この生徒は、つまり、お情で卒業させて貰つたのだが、京都のある美術學校に入學するや、特待給費生になり、グン／＼伸びて、またたく間に偉い大家になつてしまつた。

そこで、親心を行き届くだけ、行き届かせて、わが子の才能を見出してやる。これが人の親としてはもちろん、擔任教師としても、最も大切なヤクメであるといふことを、重ねて言ひ添へたい。わが子は世の中の寶である。みがきをかければ、いくらでも光るのである。

二七 「ハイ」「ヘイ」の論争から文學博士となる

子供の才能が、その親にも擔任教師にも、わからぬばかりでなく、本人自身にすら、少しもわからなかつた實例もある。ヘンな話だが、事實さういふ場合もあるのである。

富田愛次郎氏の話によると、氏の先輩に、ある文學博士がある。この人、今は立派な名士であるが、その學生時代は、高等學校まで理科をやつてゐた。あるとき、受持の先生が、自分の名前を呼んだので、氏は「ヘイ」と答へた。

「ハイ」と答へずに、「ヘイ」と答へたのがわるいといふので、その先生からヒドク叱られた。そこで、氏は心中大いに平らかならずだ、「一體ヘイと申しては何故わるいのですか」といふわけで、先生と口論してしまつた。そんなことから、遂に理科をヤメて文科に轉じ、今で

は、歴史の研究において、大家となられてゐる。

「ハイ」と「ヘイ」との區別から、自分の志を變更してしまつたのであるが、もし、前のコースをとつてゐたならば、果して今日のごとき地位が獲得できたか、いささか疑問とせざるを得ぬ、偶然にも「ハイ」と「ヘイ」事件が動機となり、かへつて、氏の眞實の力に突き當つたため、仕合せとなつたのである。

いろ／＼な角度から、わが子の隠れたる才能を見出してやることは、これからの實力本位の社會に處し、わが子が安全に一生を送つて行ける源を見出すことで、親としての最も大切な任務である。

二八 會社・銀行も大學出身者を歓迎しない

明治・大正の頃であれば、今とは、社會狀勢が大いに異つてゐたから、多くの銀行・會社から、先きを争つて、大學出身者の採用申込があつた。ところが、此の頃では、其の銀行・會社が、大學出身者をあまり歓迎しなくなつた。

何故歓迎しないかといふに、どの會社・銀行でも、今は大學出身の社員でイッぱいになつて來たので、新しく大學出身者を採用したところで、それだけの人たちの働く餘地がなくなつてしまつた。傳票を書いたり、ソロバンを弾いたりするのは、誰にだつて出来る。大學出身者にそんなことをさせるのは勿體ない位で、丁度、飯を食ふ茶碗を金でこしらへたり、杓子を銀でこしらへるやうなもので、そんなムダは、ゆるされなくなつて來た。

結局、給料が安くても、それをよるこんで、そして、よくマジメに働いて呉れそうな人を、採用するといふ方針のもとに、大學出身者でなくても、ドシ／＼採用するやうになつて來た。それもその筈で、大學を出てゐると、出世が遅いからといつては、スグに不平組の方にまわつて、シマツに困る。そこで、實務本位で、大學出以外から採用し、ミツチリと經驗を積んだところで、ドシ／＼上役に引き上げる。

それで立派に間に合ふ時勢になつてきたのである。それを知らずにゐる親たちは、實に氣の毒といふ外はない。

二九 外國では日本以上にヒドい

歐米の現状はドウであるかといふに、これは日本より更にヒドい。日本のある銀行家が、歐米漫遊をして、英國の大きな銀行を訪ねたとき、日本の銀行家が「こちらの銀行では、大學出身者を何人位用いつてゐるか」と訊いたところ、「大學出身者？ そんな大したもののは、此の銀行には不要だ、何千人の行員中、三人か四人ゐる位だ」との答へ。

つづいての答へが一層フルつてゐる。「銀行の仕事といふものは、至極カンタンなことばかりであるから、何も大學出身者を必要とせぬ。そんな立派な連中は、何か他の知識・學術の必要なところで働いて貰つてゐる。だから、銀行では使つてゐない」といふのである。

そして、逆に「君の銀行はドウだ？」と、今度は、こつちが質問を受ける側になつてしまつた。「僕の銀行では半分位は大學出身者を使つてゐる」と答へたら、スツカリ感心してしまひ「日本が勃興するのもムリはないな」と、しきりにうなづいてゐたさうである。

三〇 大學出身者を高給で迎へない話

日本の銀行・會社では、現在もまた將來も大學出身者を引きつづき採用するであらうといふ見込はある。

しかし、それは安い木綿物で間に合ふのであるけれど、絹地をダムピングするといふから、絹地の方を、安く買つておくといふ程度のことである。

だから、良い條件では決して採用して呉れない。この調子では、折角、大學を出ても、ヒドい生活に甘んずる外ない。つまり、大學を出るために、澤山の資金を投じて、まことにツマらぬといふことになる。

三一 鐵道省では學校の成績をアテにせぬ

しかし、日本の官廳は、まだ、なか／＼大學出身者を歓迎しさうな氣もする。此の方面の實際はドウか、そこで、鐵道省運輸局長新井堯爾氏の談なるものを、つぶさに聞いて見ると、

「國有鐵道では、どういふ風な採用の仕方をしてゐるかといふに、五千人以上からの應募者に對して、一々應對してゐたのでは、情實纏綿としてドウにも仕様がなから、勢ひ試験制度を用ゐてゐる。

ただ、時々お叱言を食ふのは、國鐵では學問の成績は悪くても、ベースボールや、柔道や、劍道や、テニスや、ラグビーが上手でさへあれば、ドシ／＼採用してゐるが、これは少々勝手過ぎはしないかと言はれてゐる。

なるほど、事實に於いて、學校の成績の如何にかかはらず、さうした運動に秀でた點を買つて採用してゐるのもあるにはある。それといふのが、國鐵は他所と異つて、必ずしも秀才を要しないからであつて、よしや學校の成績は芳しくなくとも、假りに一藝に長じた人であるならば、何事でもよく爲すであらうし、それに普通程度の常識さへ具へて居れば、それで充分なほどの國鐵の仕事なのである。

僕なんか學校を出たときの成績を見られると、甚だ恥しい次第だが、今日、國鐵に来て天下の秀才と伍して、ちつとも遜色を感じないし、自分でも、それだけの自信を持つてゐるのであ

る。僕は、高文の試験を受けたときは三桁であつた。三桁といへば百何十番といふわけだ。一番の人もあるし、二番の人もあり、それらの人と較べると、甚だ見劣りがするやうだが、しかし自分では、仕事の上では決して譲らぬだけの確信があるのだ。

僕は、全くのことを言ふと、學校時代は運動ばかりしてゐた。陸上運動や、テニスなどをやつて、ちつとも勉強しなかつたから、學問の成績の良かりさうな筈がない。ところが、今日二十年も經つて見ると、學校の成績といふものは、實務には餘り關係しないと云ふ事が解つた。僕たちはサウいふ見地から、或る場合、一藝に長じた者を採用することもあるのである。

この言葉によつて考へるに、現今では、官廳方面でも、かならずしも學校の成績のよい秀才型ばかりを採用しなくなつたと言へる。學校の成績は少々わるくとも、操持に富むとか、何か特長のある、すなはち長所のある人間を探し求めてゐることは事實であつて、つまり、一つの長所を持つてゐるといふことは、その本人に、その長所を貫き通したところの堅實な意志力の持主であるといふことが認められ得るからで、誘惑にも打ち克つて、官吏道を忠實に遂行するといふ點に重きを置くやうに思はれる。

在學中の知識の獲得量を重視せず、將來性に對して、つぶさに判斷して、良い人間を採用するといふのが、これからの官廳・銀行・會社等々、社會の各方面にわたつて、人員採用の一般的傾向をなして來てゐるのである。

三三二 いかにかに健康が大切であるかの實話

現今のやうな目まぐるしい程、繁忙な時代になつては、健康といふことが一切を解決するやうになる。早い話が、人間としての一生を、幸福を以て貫くには、實に旺盛な精神力と體力とを要するのであつて、この精神力と體力とは、強健きはまる一生に宿るのである。

この頃は、官吏であつてさへ、過去のやうな、朝の九時から午後四時までの勤務では、全く間に合はなくなつた。まるで、個人の商賣と同様に、朝早くから夜遅くまで働き通せるやうでなくては、良い地位に達することは出来なくなつて來た。

また、第一銀行取締役佐々木修二郎氏も、「最近、身體の健康といふことの必要が、特にヤカましく叫ばれるやうになつて來た。昔は、どうも子供の身體があまり丈夫でないから、銀行

に入れようと思ふなどと、銀行は腺病質者の溜りのやうに考へられてゐた時代もあつたが、現今では大都會だとビルディングとか、大銀行などは、人間にとつて一番大切な太陽の光線のあたらぬところに、一日中ゐるわけで、現に僕たちの仕事をしてゐるところでも、一日中電燈をつけてゐる有様である。こうしたビルディング生活は、でもなく昔の穴居時代そのままであつて、かかる變則的な生活に堪へ得るには、どうしても、身體が強健でなければイケないとおもふ。そこで昔のやうに、銀行は體が弱くても勤まるなんぞ思つてゐては、それこそトンだ間違なのである』と言つてをられる。

わが子の身體に氣をつけてやる。これを原則として、上級の學校にも入學させる。適業の撰定にも苦心する。つまりは、わが子の將來を仕合せにしてやることを標準として、わが子の志望に對して、よく相談に乗つてやるべきである。要するに、わが子を本當に知つてやるべきであるといふ一語に盡きる。

三三三 小説家でさへ世間の想像とちがふ

「昔から、小説家といへば、青白い顔をして、ひよろ／＼して、肺病のやうな咳をする者のやうに思はれてゐた。新派の芝居などに出て来る小説家を見ると、眞黒な頑丈な體格をした人は出て来ないで、皆、青白い顔をして、ひよろ／＼したのが出て来ることにキマつてゐるやうである。ところが、現今の時代においては、事實に於いてサウいふ恰好では、小説家はトテも生活して行けないのである。明治生命の重役水上瀧太郎君のやうに、片手間に仕事を持ち、片手間に原稿を書いて行くといふのには、よほどしつかりした健康を持つてゐなければならぬと思ふ。これは、ひとり水上君ばかりでなく、私どもの友だちでも、この頃、仕事をしてゐる人は皆丈夫である。たとへば、谷崎潤一郎君などは、實にガツチリしたものである。それから、私の友人の里見弴君、この人は身體は小さいが實に精悍なものであつて、二三年前であるが、同君が子供さんと一緒に駈けつこをやつたのを見たことがある。丁度、里見君の家の裏に空地があつて、子供さんたちと一緒に野球をやつたあとで、今度は駈けつこをしやうと言ふのでやつた。私も止せばよいのに、一緒になつてやつたところが、私は、一ト廻りしたらヒツクリ返つてしまつた。里見君と子供さんたちは、たうとう最後までヤリ通した。

私は、このありさまを見て、これでこそ佳いごとが出来ると、つく／＼感心したことがあつた」

以上は、小説家で東京放送局文藝部長の久保田万太郎氏の談であるが、従来、最も不健康な職業であり、それにたづさはる人は、皆、肺病患者かのやうに、弱々しい人たちだとばかり想はれてゐた小説家ですら、この談話の通り、人並以上の健康の持主でないと、いい仕事は出来ないものなのである。

これからの世の中が、いかに精神力・體力のスグれた人でなければ、仕合せになれぬかの證據として、もつともよい見本であらうと思ふ。

三四 人を使ひこなす手腕の持主とせよ

これからの世の中に、わが子をして生れ甲斐ある生き方をさせるためには、ムリな教育を施さず、あくまでも相當な程度だけに止めて、先づ身體の強健を眼目として、精神力を充實させることに努め、世間といふ荒海の眞唯中に、ビクともせず暮らしつづけ得るやうな、明朗に

して剛毅である人間に仕立ておくべきである。

どんなに澤山の人をも立派に使ひこなす力さへ、持ち合せて居れば、また、どんなに使ひにくい人間をも使ひ馴らすだけの實力を持ち合せて居れば、おのづと人の上に立ち、仕合せとなるのである。

澤山の人を使ひこなす手腕があれば、昔から立派に出世したのである。秀吉とか、家康とか一々實例をあげるまでもあるまいと思ふ。

それを、世間の人たちは、出世したから多くの人を使へるのだと思つてゐるやうであるが、これは逆な見方で、その人に澤山の人間を、使ひこなす手腕があるから、それを見出されて、立身出世するに至つたのである。

尤も、人を使ひこなす手腕がなくても、立派に立身出世した人もあることは申すまでもないが、現代においては、機械の力を遺憾なく利用するところの生産技術に秀でて居るとか、それら一切を含む事業經營の任に堪へ得る者であるとか、または、人間を立派に使ひこなす手腕に秀でて居る者が、仕合せな境涯に入ることの出来る仕組みになつて居るのである。このこと

を深く心にとめておくべきである。

三五 わが子を出世頭としたい親心の忝けなさ

何れにしても、ムリな教育を、わが子に押しつけて、アタマばかりの青白い人間にするよりは、精力絶倫の人間に仕立てあげて、現代に存在するところの、素晴らしい事業に直接させることが、本人にとつても、世の中にとつても、大きく言へば日本のためにも、意義あることなのである。

すべての子供を、世の中のすべての親たちは、其の時代の出世頭にしたいとて仕方がないのであるが、そのやうに具合よく振り當てることは出来ない相談なのである。

そこで、それぐの分に應じただけの教育を授けて、それぐの方面において、わが子をして、行く末長く仕合せ第一に生きて行けるやうに仕向けてやるのが、人の親たるものの、眞の責務なのである。

つまり、わが子を、ムリヤリ世の中の出世頭としたいといふ親心を、ジツと押さへて、其の

子の持つてゐる實力を充分に開發して、世の中を仕合せに渡れるやうにといふことを以て満足とすべきである。

かかる眞實心に富む親に對しては、その子からばかりでなく、社會からも、國家からも、更に世界中から、ひとしく感謝の絶讃を送られることになるのである。

親として、わが子に對して、最もシツカリとして立派な處置を執つた以上、その親の胸間には、最大の名譽に富む勳章が輝いてやまないのである。

東京市内で一番よく賣れる

讀賣新聞

朝刊二十頁
夕刊四頁
(但水曜土曜は八頁)

東京讀賣新聞社

時代に應じた薬と感服

陸軍中將 堀内文治郎閣下



年のせいも、近來少し無理な仕事をつとけると、頭の調子がどうもはつきりしない。仕方がないので頭痛薬を用ひて見たが、腹工合を悪くし、食慾に障るので困る。そのため、餘程不快の時でないとは服まないことにして居るが、友人に「はれやか」を熱心に勧めるものがあり、従來の頭痛薬と五十歩百歩の考へでゐたが、頭の榮養になる薬だといふので、一週間ばかり続けて服んで見た。なる程爽快といふか、明朗といふか仲々頭の調子がいよゝ。それに、便通が非常に良くなつて大變心地がよい。世の中が進んで来ると、必要に応じて良い薬が考へ出されるものだと、感心してゐる次第である。

因に「はれやか」は胃腸や心臓を害ひ弱な一時的鎮痛剤とは異なり服めば服む程頭に一番大切な神経、カルシウムの養分を補給して、頭の病氣を病根から治癒に導く最も進んだ頭の薬で専門家を呼ばれる方々から推賞されるのも故なきではありません。

東京・銀座 日獨醫化學研究所

はれやか

不思議なサイコロで

野球が實戦そのまま遊べる
超モダンポケット野球

サイコロ

全国野球界に
歴倒的大流行!

定価 十錢

東日本一手販賣元

森田書房

京阪神一手販賣元

新正堂書房
振替東京四二五二二
振替大阪五〇二九一

中国・四國・九州
一手販賣元

森田書房西部支店
振替大阪五六一六四

全国書店、文具店、驛賣店にあり

好評！全國驛書店有名書發賣中

| | |
|--------|-----------------------------|
| 谷 孫六著 | 世渡り秘訣百ヶ條 |
| 谷 孫六著 | へそくり問答 |
| 高山晴洲著 | 人を説く秘訣百ヶ條 |
| 山田靈林著 | 失意の時 心構へを禪に訊く |
| 讀賣新聞社編 | 何が私を不良にしたか |
| 谷 孫六著 | 孫子の戦法 |
| 谷 孫六著 | 孟子の説法 |
| 讀賣新聞社編 | 男性への抗議・女性への反駁 |
| 天草平八郎著 | 正力松太郎 と小林三三 如何にして今日を築いたか |
| 谷 孫六著 | ガンバリズム(廿錢) |
| 谷 孫六著 | 生きた富豪術(廿錢) |

— 定價十錢 — (送料各二錢)

東京・麹町・有樂町二ノ二
振替東京四二五二一

(冊子即賣普及會)

森田書房

昭和十一年二月二日印刷
昭和十一年二月十二日發行

版權
所有

『わが子をいかに教育すべきか』 定價十錢
(送料二錢)

著者 清水安彦

東京市神田區旭町十四番地四 發行者 貴田實

東京市麴町區飯田町一ノ二四 印刷者 卜部常次郎

東京市神田區旭町十四番地ノ四

發行所 現實處

振替東京六二〇〇二番

發賣所 順生堂書店

(現實處營業部)

東京市神田區旭町十四番地ノ四

特約取次店 森田書房(東京) 啓徳社(東京)

京阪神特約店 大阪市北區堂島上二丁目二五(電話北
振替大阪五〇二九一番(三九一)) 新正堂書店

なほ本冊子は東京鐵道局公認鐵道保養會所屬の鐵道各驛ホーム・スタンドにて一手販賣の特約品です

同 人 同 同 同 同 同 同 同 同 處
 2 1 11 10 9 8 7 4 3 2 1

| | | | | | | | | | | |
|--------------------------|-----------|--------------|-------------------------------|-----------|-----------------|--------------|----------|------------------------|----------------------------|---------------|
| 松木 千年著 | 同 | 松木 千年著 | 松木 千年著 | 松木 千年著 | 清水 安彦著 | 同 | 成木 大業著 | 故安田善次郎翁 語録 | 日本産業能率研究 所長 上野陽一著 | 奥平 祥一著 |
| 三井・三菱 住友・各家の家 憲・家訓 | 店員 訓二百八十條 | 働かざる者は食ふべからず | 安田・住友・三越 松坂屋・大丸・各店の 實業訓 | 朝起きのすすめ | 焦るな、落ちつけ(肚の据ゑ方) | その逆を行け(頑張る力) | これからの暮し方 | 生活に困らぬ法 (故安田善次郎翁語録) | 本當の働き方 (人を使ふ法 使はれる法) | 人生は戦場なり(腹で勝て) |
| 四六判 五八頁 | 同 六四頁 | 同 六八頁 | 同 六四頁 | 同 六四頁 | 同 五六頁 | 同 四八頁 | 同 四八頁 | 同 四八頁 | 同 五六頁 | 同 五〇頁 |
| 特價十銭 送料二銭 | 同 二十銭 | 同 二十銭 | 同 二十銭 | 同 定價十銭 | 同 二十銭 | 同 二十銭 | 同 二十銭 | 同 二十銭 | 同 二十銭 | 同 二十銭 |

目書刊既「書叢生人」及び「書叢世處」

果 幾 計

人生叢書(4)

實現處發行